

東京ビエンナーレ2025のアーティストおよびプロジェクト速報！

【東京の地場に発する国際芸術祭】

「東京ビエンナーレ2025 いっしょに散歩しませんか？」

東京のまちで出会う世界7カ国のアーティスト38組を発表！

—この秋、「散歩」から多様な表現が生まれる—

いっしょに散歩しませんか？
Wander for wonder



TOKYO
BIENNALE
2025

東京の地場に発する国際芸術祭
Art Projects Originating in Local Areas of Tokyo

CD 並河進 / AD 尾崎友則 / Photo 佐野優典

一般社団法人東京ビエンナーレ（東京都千代田区東神田：代表 中村政人）は、「東京の地場に発する国際芸術祭『東京ビエンナーレ2025』」を2025年10月17日（金）～12月14日（日）に開催します。

本リリースでは、秋の開催に向けて**開催場所、出展アーティスト、散歩にちなんだプロジェクト、イベント**を発表いたします。「いっしょに散歩しませんか？」をテーマにかかげた2025年の東京ビエンナーレは、まち歩きを楽しみ、アート作品を味わい、まちの歴史が刻んだその足跡を追いながら、東京の魅力を探究する芸術祭です。

市民でつくる「東京の地場に発する芸術祭」という基本姿勢は第1回(2020/21)、第2回(2023)から変わりません。第3回（2025）は創建400年を迎える**東叡山 寛永寺、エトワール海渡リビング館**の2つの拠点展示のほか、**6つのエリア（上野・御徒町 / 神田・秋葉原、水道橋 / 日本橋・馬喰町 / 八重洲・京橋 / 大手町・丸の内・有楽町）**に**38組のアーティスト**が作品を展開します。

2025年のプロジェクトとして「スキマプロジェクト（仮）」、写真プロジェクト「Tokyo Perspective」では、通常の展示空間を超えたアート作品の在り方、関わり方、見方を提示していきます。

海外アーティスト**公募プロジェクト「SOCIAL DIVE」**では、世界40か国から1400以上もの応募があり、東京という場所のポテンシャルに注がれた、世界からの熱い視線を感じさせてくれました。このうち、これまでの散歩の概念を超える、発想豊かな“SANPO”の提案をしてくれた4人のアーティストをこの秋東京に迎えます。

「**看板建築プロジェクト**」は、建築史家・建築家の藤森照信氏によるレクチャー、中村政人との散歩イベントも予定され、看板建築を通してまちの記憶から東京の基層文化を味わいます。そのうち海老原商店にてノルウェーのアートコレクティブ Tenthous Art Collective and the OVEN Network が活動。「**海外連携プロジェクト**」として国際ネットワークでつながったアーティストたちが、さまざまなイベントを通じて市民とふれあいながら、まちと人のあり方を探ります。

さらに東京ビエンナーレ2025では、これらをつなぐツール「**アートマップ**」を印刷物とデジタルで、参加される皆さんの「見る」「歩く」をガイドし、新しい発見を促します。2025年10月開催の東京ビエンナーレ2025に、引き続きご期待いただけましたら幸いです。

本プレスリリースのポイント（関連画像はこちらから[ダウンロード](#)ください）

- 開催概要(p3)
- 総合プロデューサー中村政人「ミッションは、東京にダイブし、街と深く関わること」(p4)
- 西原珉「東京ビエンナーレ2025 テーマについて」(p4)
- 開催場所と出展アーティスト－会場は東京北東部の多彩な6エリア (p5)
- TBアートプロジェクトの紹介(p10)
- 東京ビエンナーレ3つの特徴 / 東京ビエンナーレ2025 開催イベント (p11)
- 鑑賞チケット / 会期・時間と休業日について / オウンドメディア(p14)
- 執行体制 (p15)

【プレスレビュー】 2025年10月16日（木）

開幕に先立ち、主要な会場を巡るメディア関係者様向けの内覧会（プレスツアー）を予定しております。詳細については、後日改めてご案内いたします。ご希望のメディアの方は下記までご連絡ください。

■開催概要 (2025年7月17日現在)

【名称】 (日) 東京の地場に発する国際芸術祭「東京ビエンナーレ2025」
(英) Art Projects Originating in Local Areas of Tokyo
Tokyo Biennale 2025

【テーマ】 (日) いっしょに散歩しませんか？
(英) Wander for wonder

【総合プロデューサー】中村政人

【キュレトリアル・メンバー】並河進、西原珉、服部浩之

【事業プロデューサー】中西忍

【会期】2025年10月17日(金)～12月14日(日)

【会場】拠点展示：東叡山 寛永寺、エトワール海渡リビング館
展示エリア：上野・御徒町エリア、神田・秋葉原エリア、水道橋エリア、日本橋・馬喰町エリア、八重洲・京橋エリア、大手町・丸の内・有楽町エリア 計6箇所

【主催】一般社団法人 東京ビエンナーレ

【後援】台東区 一般社団法人中央区観光協会

【特別助成】公益財団法人石橋財団

【助成】アーツカウンシル東京 [東京芸術文化創造発信助成(単年助成)]創造環境向上活動
「アートインタープリター育成講座プログラム*」に対して



【協賛】三井不動産株式会社 三菱地所株式会社
株式会社 大丸松坂屋百貨店 富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社

【事業パートナー】株式会社東京ドーム

【特別協力】東叡山 寛永寺 株式会社エトワール海渡

【協力】NTT東日本 海老原商店 株式会社大手町ファーストスクエア
東京藝術大学 東日本旅客鉄道株式会社

【補助事業】令和7年度日本博2.0事業(独立行政法人日本芸術文化振興会/文化庁)



JAPAN CULTURAL EXPO 2.0

*アートインタープリター育成講座プログラム(実施予定)

アートを通して対話を生み出し、社会課題の可視化や多様な人々の共創を促す役割を担う人材を育てる講座をオンライン講座と実践講座を交えながら実施いたします。参加者は事前募集し、東京ビエンナーレ開催期間は実践の場としても活用されます。

【参加アーティスト一覧(50音順)】
[国内]

秋山珠里、岩岡純子、L PACK.、大内風、片岡純也+岩竹理恵、片山真理、窪田望、栗原良彰、黒川岳、小瀬村真美、SIDE CORE、佐藤直樹、6lines studio、鈴木真悟、鈴木昭男、鈴木理策、高橋和暉、寺内木香、戸田祥子、豊島康子、中村政人、畠山直哉、藤原信幸、ホガリー、港千尋、ミルク倉庫ザココナッツ、村山悟郎、森淳一、森靖、与那覇俊、渡辺英司

[海外]

ナラカ・ウィジェワルダネ(スリランカ)、カミラ・スヴェンソン(ブラジル)、Tenthaus Art Collective and the OVEN Network(テントハウスアートコレクティブ&オープンネットワーク/ノルウェー)、マリアム・トヴマシアン(アルメニア)、チュオン・クエ・チー/グエン・フォン・リン(ベトナム)、ピョトル・ブヤク(ポーランド)、アダム・ロイガート(スウェーデン)

東京の地場に発する市民による国際芸術祭「東京ビエンナーレ2025」開催によせて 「ミッションは、東京にダイブし、街と深く関わること」

総合プロデューサー 中村政人

東京ビエンナーレは、東京という都市のさまざまなエリアに「飛び込む」ことで、そこに集い、暮らす人びとの営みや風土の中に息づく魅力、新たな価値を発見し、ともに創り上げていく「ソーシャルダイブ (social dive) 型」の国際芸術祭です。

今回のテーマ「いっしょに散歩しませんか？」は、「誰と」「どこを」歩くかによって私たちのつながり方が変わることに着目し、私たちがやわらかく、優しく結びつける新しいかたちの「散歩」を創造する試みです。その未知なる散歩を通して、人と人、人と都市の出会いが生まれる「ソーシャルダイブ」としての表現を探求します。

対立が深まる世界情勢の中でも、たとえ初対面であっても、誰かと並んで歩くという身体的な行為が、互いを知り合うきっかけとなり、街や文化への関心を芽生えさせ、対話の種となっていく。そして、関東大震災や第二次世界大戦により二度にわたって焼け野原となったこの都市・東京が、今なお多様な街並みと人々の暮らしを育てていることに對し、「ともに歩ける」こと自体の奇跡的な時間を大切にしたいと考えています。特に、江戸から続く都市生活の知恵や信仰、自治、芸能、町人文化といった「基層文化」の存在を、私たちは忘れてはなりません。それらは目立たぬかたちで今も街のあちこちに息づいており、現代において新たな創造の土壌となりうる重要な文化資源です。東京ビエンナーレ2025では、こうした見えにくい東京の基層文化を丁寧にすくい上げ、アートプロジェクトを通して未来につないでいく試みに挑戦します。

そのためにも、アーティストの想像力と方法論によって、東京の街角をあえて漂流し、積極的に「道草」するような表現のあり方を模索します。新たな関係性を紡ぐ「散歩」するアートプロジェクトが、街と人をやわらかくつなぎます。

たとえば、創建400年を迎える東叡山 寛永寺でのインスタレーション作品や、街のスキマにひっそりと置かれた作品群に会いに行くとき、その道すがら出会う風景や人々との何気ない交流にこそ、今ここでしか味わえない発見があります。気になるものに出会ったときは、ぜひ立ち止まって、少し時間をかけて眺めてみてください。そこには、思いがけなく心がひらく瞬間が潜んでいるかもしれません。

東京ビエンナーレ2025は、14か所におよぶ展示会場、38名の参加アーティストによる作品、たくさんの散歩プログラムを通して、東京にダイブし、まちと深く関わるアートプロジェクトを生み出します。

「東京ビエンナーレ2025 テーマ“いっしょに散歩しませんか？”について」

キュレトリアル・メンバー 西原珉

移動と精神の自由、日常と非日常の往復、歴史の横断——散歩は古来、人間にさまざまな恩恵をもたらしてきました。制約の多い空間と時間に暮らす現代の都市生活者にとって、「歩くこと」の価値はいっそう高まっています。

ここで美術の近い歴史を見てみると、1960年代以降、アーティストたちは自らの身体をメディウムとし、世界を読み替える歩行の実践を広げてきました。ヨーコ・オノ、ブルース・ナウマン、ヴィト・アコンチが相次いで“歩行”を作品化したのを皮切りに、ハミッシュ・フルトンは現在に至るまで〈Walks〉シリーズを継続。河原温が日々の移動を地図上に赤線で刻んだ《I Went》、リチャード・ロングのランドワーク、中国の万里の長城を横断したマリーナ・アブラモヴィッチ、都市を聴覚的に再構成するジャネット・カーディフ、フランシス・アリスの数々のプロジェクト——歩行は多彩な表現へと展開してきました。世界各地を歩くアーティスト、ガブリエル・オロスコは都市を「スタジオ」と呼び、街での偶発的な発見の瞬間こそが作品であると説きます。東京ビエンナーレ2025は、これらのアーティストたちに倣い、散歩＝創造行為、都市＝表現の場と捉え、作品展示やプロジェクトを通じて「遊ぶ・彷徨う・道草する・出会う・思索する・発見する」アートスタジオとしての東京へ人々を誘います。参加アーティストそれぞれによる街での創造行為を鑑賞する一方で、観客自身が創造者へと転じる契機を得ることができるでしょう。

本芸術祭は、東京という巨大なテキストを背景に、歩行という最小単位の行為から都市の潜在資源を再発見・共有する回路を構築する試みです。誰もが都市を「歩きながら創造する」主体となり、歩行の思考を通じて新たな公共の地平をひらく——それが東京ビエンナーレ2025のヴィジョンです。

東京ビエンナーレ2025 3つの特徴

特徴① "さんぽ"をテーマにした市民が主体となる参加型芸術祭

2つの拠点展示、6つのエリアに展開する作品やプロジェクトを巡る東京ビエンナーレ2025。参加する市民の方々が、自分自身の独自ルートをつくり、作品以外にも“これってアート?!”と発見していく、市民の手でつくる芸術祭です。会期前から「さんぽ大学特別講義」も開催。さんぽの意義や新しい視点を共有していきます。会期中は散歩にちなんだワークショップやツアーも多数開催します。

特徴② 2つの拠点・6つのエリアを結ぶ「アートマップ」

東京ビエンナーレ2025に参加し、「歩く」「発見する」のお伴をするのが、アートマップです。作品展示以外にも地域の文化施設、パブリックアート、まちに潜む面白い情報を繋げたるために「これもアート発見隊」が結成され、事前に調査・情報収集します。また、「江戸/東京生活考現学」に基づいて世相や文化、人々の暮らしの痕跡をプロット。これらがデジタル空間でひとつのマップに反映され、東京ビエンナーレの開催エリアを繋ぎます。

特徴③ 国際性と地域性、そこに人々が交差する

海外アーティスト公募プロジェクト「SOCIAL DIVE」や「海外連携プロジェクト」など海外から招聘されるアーティストと多角的な視点で、私たちの暮らし・文化、振る舞い・言葉に潜むポテンシャルを再発見・再構築していきます。散歩やイベント、対話などを通して、私たちが普段なかなか気づけない、東京の新しい見方や可能性を市民のみなさんと一緒に見つけていきます。

開催場所と出展アーティスト——会場は東京北東部の多彩な6エリア

東京ビエンナーレ2025は、東京の北東に位置する千代田区、中央区、文京区、台東区にある複数の施設や公共空間で開催されます。東叡山 寛永寺、エトワール海渡リビング館の2つの拠点展示会場（有料）を中心に、それぞれの歴史や文化をもつ6エリア（無料）で、展示やイベントをお楽しみいただけます。



拠点展示

東叡山 寛永寺
 (台東区上野桜木1-14-11)

エトワール海渡リビング館
 (千代田区東神田1-15-15)

展示エリア

上野・御徒町エリア
 水道橋エリア
 神田・秋葉原エリア
 大手町・丸の内・有楽町エリア
 日本橋・馬喰町エリア
 八重洲・京橋エリア
 (2025年7月17日現在)

[上野・御徒町 エリア]

江戸時代に創建され、2025年に400周年を迎える東叡山 寛永寺。東京ビエンナーレ2025では、寛永寺本堂に加え、上野公園内の清水観音堂、開山堂、弁天堂の諸堂を拠点展示会場とします。ここでは、アーティストたちがそれぞれの「場」に対峙して生まれた展示を体験できるでしょう。さらに近隣各所では、サウンドアーティストの鈴木昭男が代表的プロジェクト「点音（おとだて）」を実施。茶の湯の「野点（のだて）」のように、屋外で耳を澄まして感覚を開くポイントを選出します*。

*鈴木昭男の「点音（おとだて）」は他エリアでも展開。

出展アーティスト：黒川岳、小瀬村真美、鈴木昭男、藤原信幸、森淳一



黒川岳 《石を聴く》
2022年 photo:鈴木陽介



藤原信幸
Odunpazari-記憶 《植物の集まり》
2018年



森淳一
《山影》2018年
撮影：宮島径
©MORI Junichi
Courtesy of Mizuma Art Gallery

[水道橋 エリア]

東京ドームシティを擁するエンターテインメントのまちとして、多くの人を訪れる水道橋。東京ビエンナーレ2025では、東京ドームシティ内で2つの展示を体験できます。長さ100m超のデジタルサイネージでは村山悟郎の映像作品に、また水景エリアにHogalee（ホガリー）のウォールアートに出会えるでしょう。これらは、東京ドームシティとアートの可能性の探求をテーマに、2022年から東京ドーム、東京藝術大学、東京藝術大学芸術創造機構の3者が進めるプロジェクトの一部となります。

出展アーティスト：Hogalee、村山悟郎



村山悟郎
《絵画の双子》（部分）
2021年 photo by vvpfoto.



Hogalee
《Re-sortir / リ・ソルティール》
2024年 撮影：池ノ谷侑花（ゆかい）

アーティストのプロフィールは東京ビエンナーレ2025 ウェブサイトをご覧ください
※過去作品も含まれています。



TB2025 web

[神田・秋葉原エリア]

神田に今も残る古い建築群を会場に、東京の基層文化に敬意を払いつつ未来を考える「看板建築プロジェクト」を展開します。建物のひとつ、海老原商店では、ノルウェーのTenthous Art Collective とバンコク、ソウル、ジャカルタ、シンガポールからアーティストが参加するThe OVEN Networkの協働による「海外連携プロジェクト」も実施。現地を拠点にトランスローカルなアクション、ワークショップ、リサーチを実施します。別の建物、角地梱包では、蜜蝋を用いた作品で知られる秋山珠里が会場の歴史を踏まえた展示で参加予定です。電気街とポップカルチャーのまち、秋葉原に隣接する外神田近辺では、サウンドアーティストの鈴木昭男が代表的プロジェクト「点音（おとだて）」を実施します*。

*鈴木昭男の「点音（おとだて）」は他エリアでも展開。

出展アーティスト：秋山珠里、鈴木昭男、
Tenthous Art Collective and the OVEN Network



秋山珠里
《Noli Me Tangere》2021年

[大手町・丸の内・有楽町エリア]

大手町・丸の内・有楽町は、日本経済を先導してきたビジネス街にして、美術館やパブリックアートも多く、人気のショップやレストランが建ち並ぶエリアです。東京ビエンナーレ2025では、行幸地下ギャラリーと大手町パークビル1階に、佐藤直樹の「そこで生えている。」を展示します。大型のベニヤ板に身近な植物を描き、つなげていく同シリーズは10年以上進行中で、現在330m超に達しています。いまま伸び続けるその様子を、やはり変化を続けるこのまちで体験できるでしょう。また、大手町ファーストスクエアビルの壁面には、「絵を描くことは人生を考えると」と語る大内風の大型ウォールアートが出現します。

出展アーティスト：大内風、佐藤直樹



大内風
《たましい》2023年



佐藤直樹
個展「秘境の東京、そこで生えている」
2017年

アーティストのプロフィールは東京ビエンナーレ2025 ウェブサイトをご覧ください
※過去作品も含まれています。



TB2025 web

〔日本橋・馬喰町エリア〕

江戸幕府のお膝元として発展した、商業と文化のまち日本橋界隈は、昔ながらの風情を残す老舗と新しい施設が混在した、彩り豊かな風景が特徴です。東京ビエンナーレ2025では、このまちを歩き回り、点在するアートをたどる「スキマプロジェクト（仮）」が行われます。アーティスト9組による、路地の鉢植えに擬態するような作品との出会いは、まちの余白と潜在的な創造性を再発見することになるでしょう。

馬喰町は、歴史ある問屋街の営みと、アートやデザイン領域の新たな動きが共存するエリアです。東京ビエンナーレでは、老舗問屋・エトワール海渡リビング館をメインの拠点展示会場としてアート作品からプロジェクト情報などを展示します。

展示アーティスト：

スキマプロジェクト（仮）

岩岡純子、片岡純也＋岩竹理恵、栗原良彰、6lines Studio、鈴木真悟、寺内木香、戸田祥子、ミルク倉庫ザココナッツ、森靖

エトワール海渡リビング館

L PACK、窪田望、チュオン・クエ・チー/グエン・フォン・リン（ベトナム）、ピョトル・ブヤク（ポーランド）、渡辺英司

写真プロジェクト「Tokyo Perspective」

片山真理、SIDE CORE、鈴木理策、畠山直哉、豊嶋康子、中村政人、港千尋

海外アーティスト公募プロジェクト「SOCIAL DIVE」

ナラカ・ウィジェワルダネ（スリランカ）、カミラ・スヴェンソン（ブラジル）、マリアム・トヴマシアン（アルメニア）、アダム・ロイガート（スウェーデン）



片岡純也＋岩竹理恵
《回る枝》
2025年



ミルク倉庫ザココナッツ
《都市の継ぎ目－路地の植木》
（仮称：画像は作品イメージ）2025年



森靖
《Power chord - Praying》
2025年

アーティストのプロフィールは東京ビエンナーレ2025 ウェブサイトをご覧ください
※過去作品も含まれています。



TB2025 web

【このプレスリリースのお問合せ】東京ビエンナーレ事務局（一般社団法人東京ビエンナーレ）

東京都千代田区東神田1丁目13-3 商品部ビル5階

電話：03-5809-1653 メール：pr@tokyobiennale.jp（担当：野瀬、根本）



渡辺英司
《名称の庭》2014年
(箱根彫刻の森美術館)



チュオン・クエ・チー/ グエン・フォン・リン (ベトナム)
Sourceless Waters: White. Shadow,
Art Asian Biennale 2024,
Image courtesy of the National Taiwan Museum of Fine Arts

[八重洲・京橋エリア]

東京の玄関口として多様な人々が行き交う東京駅。同駅の八重洲口／北口（大丸東京店 入り口前）には、与那覇俊によるダイナミックかつ緻密な絵画作品が出現します。ビジネス街として知られる一方で、骨董街・美術街としての顔ももつ京橋では、アーティゾン美術館近辺でサウンドアーティストの鈴木昭男が代表的プロジェクト「点音（おとだて）」を実施。茶の湯の「野点（のだて）」のように、屋外で耳を澄まして感覚を開くポイントを選出します*。
*鈴木昭男の「点音（おとだて）」は他エリアでも展開。

展示アーティスト：鈴木昭男、与那覇俊



与那覇俊
《無題（部分）》2025年



鈴木昭男
《きづき-2》
道草のすすめ「点音（おとだて）」 and
“no zo mi” in 東京都現代美術館
2018-2019年

アーティストのプロフィールは東京ビエンナーレ2025 ウェブサイトをご覧ください
※過去作品も含まれています。



TB2025 web

TBアートプロジェクトの紹介

東京ビエンナーレは、会期中に都内各所で多彩な展示やイベントを開催します。「TBアートプロジェクト」は、そのなかでも特定のテーマのもと企画され、複数アーティスト・メンバーが参加する活動です。ぜひ、プロジェクトごとでもお楽しみください。

<p>スキマプロジェクト (仮)</p>  <p>片岡純也+岩竹理恵 《回る核》 2025年</p> <p>ミルク倉庫ザココナッツ 《都市の縦目ー路地の植木》 (仮称) 2025年</p> <p>森靖 《Power chord - Praying》 2025年</p>	<p>都市の構造を物理的、観念的な「スキマ」からとらえ、ビルの間わずかな隙間（すきま）を作品発表の空間や作品そのものとして活用する試み。1999年に中村政人とコマンドNが実施した伝説的なプロジェクトで、今回は路地裏の鉢植えの隙間を縫うように、アーティスト9組の彫刻作品が鉢植えに「擬態」しながら、まちのスキマ空間を豊かに彩ります。</p> <p>出展アーティスト：岩岡純子、片岡純也+岩竹理恵、栗原良彰、6lines Studio、鈴木真悟、寺内木香、戸田祥子、ミルク倉庫ザココナッツ、森靖</p>
<p>看板建築プロジェクト</p>  <p>左から「神谷氷店」「海老原商店」「角地梱包」</p>	<p>東京のまちなかには魅力的な「看板建築」など古い木造建築が残っていますが、都市の新陳代謝のなかで解体されると、人々の記憶からも遠ざかってしまいがちです。このプロジェクトでは今も残る看板建築「海老原商店」「神谷氷店」「角地梱包」を芸術祭の会場等に活かして魅力を伝え、東京の基層文化に敬意を払える時間を創出します。また、建築史家・建築家の藤森照信氏によるレクチャーと散歩ツアーなども予定しています。</p> <p>出展アーティスト：秋山珠里、鈴木昭男</p>
<p>海外連携プロジェクト</p>  <p>Tenthaus Art Collective and the OVEN Network</p>	<p>海外のユニークなアート組織と連携して展開するプロジェクト。ノルウェーのTenthaus Art Collective and the OVEN Networkのプレゼンテーションのもと、「集うこと」「知識を共有すること」「協働的な実践を持続させること」の新たな方法を探るプラットフォーム、The Oven（オープン）が企画・実施を担います。神田の「海老原商店」を拠点とし、パブリック・インターベンション、ワークショップ、場に応答するアクションなどを通じて、空間を活性化させていきます。</p> <p>出展アーティスト：Tenthaus Art Collective and the OVEN Network</p>
<p>海外アーティスト公募プロジェクト 「SOCIAL DIVE」</p>  <p>アダム・ロイガード 《FOR THE PUBLIC I-III》 2024年</p>	<p>海外アーティストが東京のまちに飛び込み、そこで集い暮らす人びとの持つ魅力を見つめ、新しい価値を生み出すプロジェクト。参加アーティストは社会と交わりながら、まちに潜むつながりを明らかにしていきます。それは、日本に暮らす私たちにとっては思いがけない、もしくは身近すぎて気づけなかった視点かもしれません。今回は1400件以上の応募から選ばれた4作家が参加します。</p> <p>出展アーティスト：ナラカ・ウィジェワルダネ（スリランカ）、カミラ・スヴェンソン（ブラジル）、マリアム・トヴマシアン（アルメニア）、アダム・ロイガード（スウェーデン）</p>
<p>写真プロジェクト「Tokyo Perspective」</p>  <p>新作撮影中の片山真理</p>	<p>アーティストが東京を歩き、「まちの今」を写真作品化。そのオリジナルプリントを特設会場で展示するほか、ネット上のデジタルマップでも公開し、人々が撮影地点を訪れて実際の風景に対峙できるプロジェクトです。さらに、セブンイレブン各店舗の富士フィルムマルチコピー機で安価にプリントできる仕組みも用意し、新しい写真鑑賞やコレクションの楽しみ方を探ります。</p> <p>出展アーティスト：片山真理、SIDE CORE、鈴木理策、畠山直哉、豊嶋康子、港千尋、中村政人</p>

<p>さんぽ大学</p>  <p>第1回 さんぽ大学特別講義「いっしょに散歩しませんか？」2025年 写真：ただ（ゆかい）</p>	<p>東京という土地を歩き、街や路地、地形、建物、水辺などを訪れ、過去から現在に至るまで重なり合う時間や記憶の層を辿りながら「散歩」という日常的な行為をアカデミックに読み解いていくプロジェクトです。フィールドワークで街を歩きながら、特別講義をシリーズで実施していきます。「学長」は社会学者の吉見俊哉、「副学長」は建築史家の陣内秀信の両氏が務め、まち歩きツアーや、ゲストを迎えての連続講義を開催します。</p>
<p>アートマップ</p>  <p>イラスト：高橋和暉</p>	<p>散歩を通して発見する、断片的で、多様で、感覚的な気づき。それは私たちが、周囲の世界の解釈を能動的に更新する手がかりになります。このプロジェクトでは「さんぽ大学」プロジェクトと連動しながら、フィールドワークを重ねて東京の新しい「アートマップ」をつくります。東京ビエンナーレ2025の展示情報のほか、パブリックアート・文化施設情報、地域住民と専門家が歩いて、まちの中に潜む面白情報を収集する「これもアート発見隊」。そして、考現学研究の第一人者、黒石いずみ氏（福島学院大学教授）をリサーチリーダーに迎え、日本橋・馬喰町エリア、八重洲・京橋エリア内から、考現学の視点からまちに潜む江戸から現代までの生活者の痕跡を読み込み、ストーリーを紡ぐ「江戸・東京生活考現学」プロジェクトを組み込みます。</p>

東京ビエンナーレ2025 開催イベント

[さんぽ大学特別講義] [Artsticker](#)にて講義チケット発売中

さんぽ大学特別講義第3回「さんぽの杜（もり）」一般：1,500円／学生：500円【満席間近】

東京都内の凸凹地形に着目してフィールドワークを行う皆川典久氏をお迎えし、地形から都市の構造と歴史を読み解きます。

日時：2025年7月24日（木）18:30~20:00

ゲスト：皆川典久（東京スリパチ学会 会長）

さんぽ大学特別講義第4回「さんぽの街（まち）」一般：1,500円／学生：500円

東京の地場に潜むゲニウス・ロキに耳を傾けながら、そこに脈々と受け継がれる歴史や記憶と対話します。

日時：2025年11月6日（木）18:30~20:00

ゲスト：大城直樹（明治大学文学部教授、文化地理学）



吉見俊哉
さんぽ大学学長
國學院大学
観光まちづくり学部教授



陣内秀信
さんぽ大学副学長
法政大学名誉教授
中央区立郷土資料館館長



皆川典久
東京スリパチ学会 会長

〔会期中開催イベント・ツアー・ワークショップ〕

これは一部で、今後まだ増えていきます。9月初旬参加チケット発売予定！

さんぽ大学特別課外講義

●さんぽ大学特別課外講義（上野～本郷～茗荷谷編）：吉見俊哉先生

上野を出発し、本郷～茗荷谷へと歩く本ツアーでは、再開発の進む地域や記憶の上書きが進む都市空間をたどります。「観光地」として整備される東京の構造を裏側から見つめ、歩行者の視点で都市に堆積した歴史の位相を読み直します。近代化やグローバル化の中で失われつつある「さんぽ」の価値を見つめ直す、ゆるやかで批評的な都市歩行のツアーです。

吉見俊哉（さんぽ大学学長／國學院大学観光まちづくり学部教授）

日程：11月28日（金）

時間：12:00～15:30（予定）

ツアーコース：上野～本郷～茗荷谷



●さんぽ大学特別課外講義（日本橋編）：陣内秀信先生

日本橋から佃島まで、水の都市・東京の原風景と新たな風景を時空を超えて辿るまち歩き。町人地の面影、再生する日本橋兜町、亀島川の水辺空間、佃島・大川端の江戸湊跡まで、ダイナミックに変遷してきた東京の水辺の歴史を、陣内秀信先生の案内で巡ります。

陣内秀信（さんぽ大学副学長／法政大学名誉教授／中央区立郷土資料館館長）

日程：11月18日（火）

時間：12:00～15:30（予定）

コース：日本橋～八丁堀～佃島



※現地集合・現地解散となります。現地までの交通費・宿泊費はご負担ください。

藤森照信さんのレクチャーと看板建築プロジェクト散歩

木造建築が残る神田須田町・岩本町・東神田・馬喰町界隈を中心に、その町並みを巡りながら東京ビエンナーレ2025で拠点となる3箇所の木造建築の会場を回る散歩ツアーです。

散歩冒頭では、建築史家・藤森照信さんをゲストに迎え、看板建築と呼ばれる木造建築の歴史を紐解くレクチャーを踏まえ、街に散歩に出ていきます。

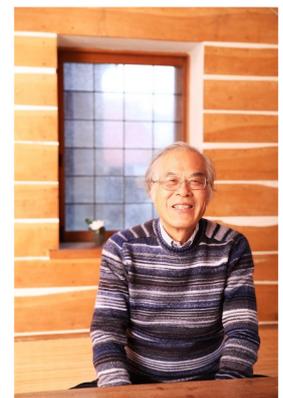
「看板建築」という建築様式を提唱した藤森照信さんと、プロジェクトの旗振り役である中村政人（東京ビエンナーレ2025総合プロデューサー）がお連れする、木造建築の魅力を堪能する散歩となります。

藤森照信（建築史家）、中村政人（TB2025総合プロデューサー）

参加料金：3,000円（仮）

実施日：11月15日（土）

実施場所：海老原商店（神田須田町）



建築史家・藤森照信



「神谷氷店」「海老原商店」「角地梱包」

ワークショップ&さんぽ 「ステッキ・ホース(お馬の杖)をつくろう！」

日々の散歩をより楽しくするための杖作り。竹の先端に陶器で作った馬を取り付け、杖として散歩につかいます。自作で絵付けしたお馬と一緒に歩くことで、一歩先の未来を先導してくれる気持ちになります。

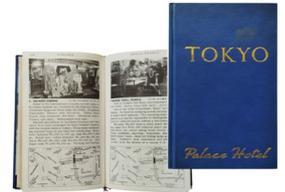
アーティスト：渡辺英司



さんぽ 「Palace Hotel Tokyo」プロジェクト (仮)

アーティストがブラジルの古本屋で偶然見つけた東京の観光ガイドブック。1961年の「パレスホテル」開館に合わせて編集されたガイドブックをもとに、そこに記載されている住所と地図を参考にしながら、現在も存在する場所、変化した場所、または完全に消えてしまった場所を巡ります。

アーティスト：Camila Svenson (カミラ・スヴェンソン)



ワークショップ&さんぽ 「SUNWALKS: A SANPO ARCHIVE」

東京の街角で、参加型のサイアノタイプ・ワークショップを行うプロジェクト。サイアノタイプは、日光で直接モノを写しとる写真技術です。都市と他者との出会いの物理的な痕跡を残すために、日光と時間を主要な素材として使用し、急速に変化し、しばしば断絶した都市環境において、静けさ、無常、そしてつながりを探求します。

アーティスト：Mariam Tovmasian (マリアム・トヴマシアン)



ワークショップ&さんぽ

「Contingent Footsteps: Mapping the Unthinkable in Tokyo」

東京での「散歩 (sanpo)」という行為を哲学的かつ芸術的なジェスチャーとして探求する作品です。偶然性と人間中心主義を超えた体験をテーマに、根本的に未知なるもの——表現を逃れる都市の現実——表現を逃れる現実——と出会うための行為として散歩を提案しています。

アーティスト：Nalaka Wijewardhane (ナラカ・ウィジェワルダネ)



さんぽ 「FOR THE PUBLIC—SAMPO」

「For the Public」は、公共のための散歩プロジェクトです。参加者が作品のパーツ、旗、道具、そして軽食などを手に持ち、ピクニックのように散歩にでかけます。目的地に到着したら短い時間だけ開かれた場をつくります。人と場所の関係を見直し、都市に新たな記憶を刻む試みとなります。

アーティスト：Adam Roigart (アダム・ロイガード)



さんぽ 「喫茶と散歩」

実施場所：馬喰町から神田美土代町へメイン会場の一つであるエトワール海渡リビング館を出発し、神田美土代町方面へ散歩する。到着地である安井建築設計事務所のオープンスペースでは、東京ビエンナーレキュレトリアルメンバー服部浩之の淹れたコーヒーで一服を交えながら、芸術祭のテーマである散歩について語らう。

実施日：1129日 (土) 13:00~16:00

案内人：服部浩之 参加料金：1,500円 (コーヒー付き) 予定



さんぽ 「総合プロデューサー中村政人と優美堂の看板犬「のの」との散歩」

秋田犬「のの」のリードを引きながら、もしくは隣で一緒に歩きながら、神田小川町から須田町界隈を巡り、東神田を目指して散歩します。

ののが赴くままに、一緒に散歩し、途中で休憩も。

普段見逃している町のあちこちに、秋田犬ののとの時間が気付かせてくれるはず。

途中でお昼を一緒に食べて (屋外でお弁当の予定)、拠点展示会場のエトワール海渡を目指します。



実施日：11月16日 (日) 11:00~13:00

第1部 のの散歩 第2部 エトワール海渡会場鑑賞

【このプレスリリースのお問合せ】東京ビエンナーレ事務局 (一般社団法人東京ビエンナーレ)

東京都千代田区東神田1丁目13-3 商品部ビル5階

電話：03-5809-1653 メール：pr@tokyobiennale.jp (担当：野瀬、根本)

鑑賞チケット 9月上旬、Artstickerにて発売予定

下記の拠点展示会場での鑑賞にはチケットのご購入が必要です。

ただし高校生以下の方々は、これらの会場も無料でご覧いただけます。

2会場共通チケット（エトワール海渡り ビング館、東叡山 寛永寺）	一般	学生	高校生以下
前売券（9月上旬～10月16日）	2,500円	1500円	無料
会期中販売券*（10月17日～12月14日）	3,000円	1800円	
会場別チケット 会期中販売券*のみ			
会場別チケット	一般	学生	高校生以下
エトワール海渡りビング館	2,200円	1,500円	無料
東叡山 寛永寺	1,200円	500円	無料

* 上記2会場以外は無料で鑑賞いただけます。

* 会期中販売券はいずれもオンライン購入（近日ご案内）で100円引きとなります。

※障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名までは観覧無料となります。当日、会場のチケット売り場で手帳をご提示ください。

※学生、高校生以下の場合、会場にて学生証等を提示していただく場合があります。

会期・時間・休業日について

2025年10月17日（金）～12月14日（日）

東叡山 寛永寺 11:30～16:30

エトワール海渡りビング館 11:30～19:00(予定)

いずれも月曜日、火曜日休業

オウンドメディア

ウェブマガジン『東京ビエンナーレNotes on Note』

現在進行形の芸術祭の活動をお伝えしていくとともに、アートに関連する「まち」「コミュニティ」「地域」「社会」「暮らし」について、多様なジャンルで活躍するゲストとの対談やインタビュー記事、活動に対する批評などを掲載しています。



URL: <https://note.com/tokyobiennale/>



TB2025 Note

東京ビエンナーレ2025 ウェブサイト

東京ビエンナーレ2025公式ウェブサイトが7月17日に公開されました。Instagram、Facebook、Xとともに開催に向けた最新情報に加え、プログラムや展示内容も詳細が決まり次第、順次ご案内してまいります。本芸術祭が少しずつ姿を現していきますので、ご注目ください。

URL: <https://tokyobiennale.jp/tb2025/>



TB2025 web

執行体制

総合プロデューサー

中村政人（なかむら まさと）

アーティスト。東京藝術大学教授。東京ビエンナーレ2020/2021、東京ビエンナーレ2023総合ディレクター。千葉市国際芸術祭2025総合ディレクター。3331ディレクター。

キュレトリアル・メンバー

並河進（なみかわ すすむ）

コピーライター、詩人、プログラマー。dentsu Japan エグゼクティブ・クリエイティブディレクター。

西原珉（にしはら みる）

キュレーター・心理療法士。東京ビエンナーレ2023総合ディレクター、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授。秋田市文化創造館館長。

服部浩之（はっとり ひろゆき）

キュレーター。東京藝術大学准教授。青森公立大学 国際芸術センター青森 [ACAC]館長。

事業プロデューサー

中西忍（なかにし しのぶ）

建築家。株式会社電通を経て、2021年3月まで日本科学未来館副館長として活動。2021年4月より株式会社IDEAL COOPディレクター。2024年より、東京藝術大学芸術未来研究場アート×ビジネス領域客員教授。

事務局長 穴戸遊美

アシスタントプロデューサー 森田裕子

プロジェクトマネージャー 石河美和子

プロジェクトコーディネーター 石本千代乃、杉浦時斗、乗松あや子、室津日向子

コミュニケーションディレクター 並河進

アートディレクター 尾崎友則

エディトリアルディレクター 内田伸一

広報ディレクター 根本陽平

広報マネージャー 野瀬明子

国際渉外担当 ダニエル・バブレク

WEBサイト制作 (GYOKU inc.)

久田友太（ディレクター）、崎原 優（ディレクター）、森田光則（デザイナー）、喜久里千江（フロントエンドエンジニア）、仲吉和重（フロントエンドエンジニア）